

「モン・フレール」前史 様々な試み

角 和 昌 浩 (かくな まさひろ)

要約 1992年から93年にかけて、ロンドンのシェルシナリオチームは南アフリカの現地情勢に深くかかわった。「モン・フレール・シナリオ」と呼ばれるプロジェクトである。アパルトヘイト体制の終焉とその後の南ア社会の未来を探索したシナリオプランニングだったのだが、これには前史がある。第一は、1980年代前半、南アの巨大鉱物資源企業アングロ・アメリカンが手掛けたシナリオプランニングである。第二に、1990年代初頭の、これも南ア国内の金融企業 Nedcor and Old Mutual companies のシナリオプロジェクトである。本稿は「モン・フレール」前史にあたる、この2つを紹介する。

1. シナリオプランニングの登場

以下は、グラム・ゲイラー Graham Galer, “Scenarios of change in South Africa”, The Round Table, Volume 93, July 2004, University of Kent およびニック・セーガル Nick Segal, Breaking The Mould : The Role of Scenarios in Shaping South Africa’s Future, 2007 を参考にして書く。

1980年代から90年代を通じて、南アフリカ共和国の未来を探索すべく、いくつかのシナリオプランニングが行なわれていた¹。この連載ではシェルのシナリオチームメンバーが関わったプロジェクトを解説しようとしています。

さて、南アは切迫していた。1978年9月の政変で大統領がボータに交替、改革が始まった。憲法が改正されカラードとインド系の住民に選挙権を与えた。だが黒人差別の実態は変わらなかった。過激化する抵抗運動を抑え込むために86年6月、全土非常事態宣言。南アの apartheid 体制はどう見ても終わりに近づいていた。では、どんな経過をたどって終わるのか？ 終わった後の南アはどんな国になるのか？ ここはシナリオプランニングの出番だった。

これから順次、3つのシナリオプロジェクトを紹介したい。

第一は、80年代前半、南アの巨大鉱物資源企業アングロ・アメリカン Anglo American PLC (以下 AAC) の活動。この会社の若手経営幹部だったクレム・サンターがスタディを主導した。第二に、90年代初頭の、これも南ア国内の金融企業 Nedcor and Old Mutual companies がスポンサーした活動。そして第三に、92から93年にかけて、ウェスタン・ケープ大学が主導し、そこにシェルグループが参加した「モン・フレール Mont Fleur シナリオ」である。

今回は、第一と第二の作品を取り上げます。

2. アングロ・アメリカン・シナリオ

2.1 AAC

アングロ・アメリカン (Anglo American PLC、AAC) は英国籍の巨大鉱業会社で、本社はロンドンにある。この会社は現在、南ア国内でダイヤモンド、銅、白金族金属、鉄鉱石、ニッケル、マンガンなどの鉱物採掘事業を行っている。この企業は南米などにも鉱山権益を持つ。

AAC は大英帝国植民地システムの中で育った。

1917年9月、南アのダイヤモンド資源への投資で成功した英国系ユダヤ人オッペンハイマー (Sir Ernest Oppenheimer) は、ほどなくしてイースト・ランド (East Rand) 深部金鉱床の開発を事業目的とするアングロ・アメリカン社 AAC を設立した。社

¹ Philip Spies, Experience with Futures research in South Africa, Futures 1994 によれば、かつて南ア国内で行われたシナリオ手法を活用した未来研究には、2つの流れがある。第一に、the University of Stellenbosch 内に1974年に設立された Associates of the Institute for Futures Research (IFR) による継続的な未来研究。第二に、1980年代から90年代前半、ロイヤル・ダッチ/シェルのシナリオチーム出身者たちがかかわったシナリオプランニング活動である。